

リモートワークを安全に機能させるには 日本独自の裁量労働制やルールづくりが必須!!

コロナショックを契機に急速に普及しつつあるリモートワーク。しかし、そこにはサイバーセキュリティをはじめとした課題があるのも事実だ。そこで、今号では本誌編集長の古川猛が、自社開発のパッケージソフトウェア、ITサービス、コンサルティング、人財育成を通じて、大手1200社以上のデータ活用とシステム運用を支援している(株)ユニリタ(東京都港区)とセキュリティシステムを手掛ける(株)ブロード(東京都千代田区)の面々にリモートインタビュー。リモートワークの現状と課題、そして今後の展望について聞いた。

コロナショック終息後も リモートワークは増える!?

古川猛・本誌編集長 コロナショックを契機にリモートワークが普及しはじめていまね。まずは、顧客に働き方改革に必要なITを提案しながら(株)ユニリタのなかでも働き方変革プロジェクトを推進している真木さんにリモートワークの概況についてうかがいたいと思います。

真木卓爾・ユニリタクラウドビジネス本部ビジネスフォース部長 たしかにここ最近のリモートワークの普及には目を見張るものがありますが、実はその兆しは数年前からではじめていました。2020年に予定されていた東京オリンピックの開催期間中は普段通り通勤できなくなるのが想定されており、大

手企業は事前に準備をすすめていたと思います。その結果、コロナショックのなかにあっても、比較的スムーズにリモートワークに移行することができたのだと思います。

編集長 ただ、中小企業の多くはそうはいかなかったと思います。とくにリモートワークに関する労務管理の仕方がわからずに困っているところが多いようです。

真木 リモートワークの場合、何時間働いたといったことよりも、何をやったかが問われます。つまり、働き方が裁量労働制になるのです。もともとこの考え方は日本人にはあまり受け入れられないものでしたが、コロナショック下であって急速に浸透しはじめています。

編集長 この傾向はこのままつづいていくと思われますか。

真木 欧米諸国ではおそらくこのままつづいていくと思います。現にTwitter社は社員に対して「希望するなら一生、リモートワークでもいい」と宣言しているほどです。

編集長 ただ、アウトプットがうまく評価されない場合はどうなるのでしょうか。そのままクビになってしまうリスクもあるのですか。

真木 欧米諸国ではそうなるかもしれませんが、日本ではそうはならないと思います。日本のビジネス界には人情味があり、アウトプットだけで人を判断しないという側面がありますから。小池環・ユニリタクラウドビジネス本部ビジネスフォース部グループリーダー 日本は欧米諸国と異なり、個人よりも組織やチームを重んじる傾向があるの



オンライン会議システムでは、遠隔地にある双方全員がひとつの画面に映し出される。画面はユニリタ社員3人にインタビューする弊誌編集長の古川猛(左上)



小出和希
こいで・かずき

株式会社ブロード
第二セキュリティ事業部 ディレクター



新里亮太
しんざと・りょうた

株式会社ユニリタ クラウドビジネス本部
ビジネスフォース部 リーダー



小池 環
こいけ・たまき

株式会社ユニリタ クラウドビジネス本部
ビジネスフォース部 グループリーダー



真木卓爾
まき・たくじ

株式会社ユニリタ クラウドビジネス本部
ビジネスフォース部 部長

で、欧米の裁量労働制をそのまま取り入れることはないでしょう。その分、これからは日本人の人情味などを加味した、独自の裁量労働制の仕組みを模索していかなければなりません。

編集長 それは非常に重要な視点ですね。

真木 その際には企業ごとにさまざまな特徴や個性があるので、それぞれに最適な仕組みをつくっていくかなければなりません。そして、そういったコンサルティング業務は、IT全般をトータルサポートしている当社のような会社の使命だと思っています。

編集長 本目参加いただいたなかで最年少の新里さんは、リモートワークに関してどのような印象をお持ちでしょうか。

新里亮太・ユニリタクラウドビジネス本部ビジネスフォース部リーダー 私は20代後半ですが、同世代の感覚で考えると自宅でも仕事ができるとわかったら、わざわざ会社に行かなくなると思います。そのうえ、アウトプットがシッカリと評価されるなら、なおのこと会社に行く意味はなくなるでしょう。ただ、人情味の部分がなくなってしまうとギスギスした雰囲気になってしまいかねないので、リモートワークでも気軽に「ありがと

う」といいあえるようなコミュニケーションの仕組みが求められているような気がします。

編集長 新里さん自身はコロナショックが終息してもリモートワークをつづけたいと思いますか。

新里 私の場合はコロナショックが終息しても、リモートワークを中心としたスタイルを維持しつづけたいと思います。私は沖縄出身で、大学の同期や後輩のなかには東京のIT企業に就職したけれど沖縄に在住し、プログラマーとしてリモートワークで会社やクライアントとつながっているという人たちがかなりいます。今後、リモートワークがさらに普及していけば、IT企業にかぎらず生活の拠点は地元に残しつつ、仕事に関してはリモートで東京などとやりとりするというのが増えてくるのではないのでしょうか。

編集長 小池さんは30代後半ですが、そのあたりについてどう思いますか。

小池 私も同じく、このままだリモートワークが中心でもいいなと思う部分があります。全体的に考えると、やはりセルフマネジメントがポイントになってきますが、これほど合理的な働き方はないし、きちんとした仕組みさえあれば生産性を向上させ

るキッカケにもなると感じています。

リモートワークで 浮き彫りになった セキュリティ対策の必要性

編集長 それはそうと、御社はリモートワークの普及に関して、どのようなサービスを展開しているのでしょうか。

小池 リモートワークにおいてセキュリティを担保しながら情報を共有し、生産性やセキュリティを向上するためのサービスを提供しています。一般的にリモートワーク用のツールやセキュリティソフトはそれぞれ別々に導入しているケースが多いかと思いますが、当社のサービスはそれらをすべて一本化しており、ひとつのシステムでIDとパスワードを一括管理できるのが特長です。そのため、作業や管理の効率が格段に上がることで期待できます。

編集長 サイバー攻撃がリモートワークを標的にしているといった報道もありますが、そのあたりについてはいかがでしょう。まずはセキュリティソフトを手掛けている(株)ブロードの小出さんにうかがいたいと思います。

小出和希・ブロード第二セキュリティ事業部ディレクター セキュリティと生産性はトレードオフだとよくいわれます。システムのなかでセキュリティを高めると生産性は落ちるし、生産性を高めるとセキュリティが落ちてしまうのです。このあたりのバランスが非常に重要になってくると思います。ユニリタでは自社システム向けに当社が手掛けているセキュリティソフト「Broium」を採用していただきましたが、この点をどのように考えていますか。

真木 セキュリティの手法は多岐にわたるので、この問題に関しても画一的な対応はできないと考えています。大事なのはそういった点も含め、コンサルティングしていくという考え方です。クライアントにとって最適なセキュリティの水準を見極め、生産性をできるだけ下げることなく、システムのなかに落とし込んでいかなければなりません。

小出 生産性とセキュリティを天秤にかけたときに、どうしてもセキュリティが後回しにされる傾向があります。リモートワークの普及によって、そのあたりの認識に変化はみられますか。

真木 残念ながら日本はセキュ



米国連邦政府機関

をはじめ、世界の重要な
公的機関・有名企業を含む
400社以上が採用!!

 **添付ファイルを
開く時の不安は
これで解消!!**

ウイルスを完全隔離[※]

従来とは全く異なる発想のセキュリティツール



Bromium[®]

【プロミウム】







世界の
主要銀行

米国
主要小売業

世界の
中央政府

米国
最大級企業

防衛機関
法執行機関

※2013年以降、Bromiumは推計20億以上のMicroVMが実行されましたが、侵害報告件数はゼロです。(米国Bromium社調べ)

詳細は [BROAD Security Square] で
bs-square.jp/columbus

株式会社ブロード
〒100-0014
東京都千代田区永田町1-11-30
サウスヒル永田町7F
TEL: 03-6205-7463 (代表)



リティへの個人の意識がまだまだ低く、その対応も形骸化してしまっているという印象があります。その点、アメリカはセキュリティで問題を起こしたら個人の責任が問われるので、セキュリティへの意識が強く、セキュリティソフトをはじめとしたツールのこともシッカリと認識したうえで使用しています。そういう意味では、根本的な問題になりませんが、日本ではまずセキュリティに関する教育をさらに徹底する必要があると思います。

めました。

編集長 ユニタでは自社の技術を生かして、地方創生にも力を入れていくそうですね。そのあたりの事例についてお聞かせください。

真木 地方創生事業のひとつとして、ローカルバスとの連携があります。地方では移動手段にバスに頼ることが多く、そこにITのエッセンスを加えれば、交通の利便性をグッと向上できるのではないかと考えたのです。最初の取り組みとして、北海道の十勝バス(株)(北海道帯広市)の協力のもと、さまざまな実証実験を行いながら、当社グループのサービスを展開しました。たとえば、バス停に着いたらスマホにあとどれくらいでバスが来るかという通知サービス

や乗降者のデータをもとにバス停の位置や路線、運行本数の見直しに役立つサービスなどです。現在では、このITサービスを活用してさらに人が移動する際の利便性に貢献できるように全国展開しています。

編集長 素晴らしい取り組みですね。これを発端としてさらにビジネスが広がっていくような気がします。

真木 まさに狙っているのはそのあたりです。バスの利便性を向上させて終わりではなく、それを基盤として、観光案内や宣伝広告、スマホアプリなどに関する事業につなげていきたいと考えています。

編集長 ところで、高齢化が著しくすすむ地方にとっては、リモートワークが福音になる可能性もありますね。たとえば、自宅での親の介護しながらリモートワークで仕事をするという人たちも増えてくるように思えます。

真木 そういう欲求はさらに増加していくと思います。また、リモートワークにかぎらず、今後はますます日常のなかに「リモート〇〇」といった事柄が入り込んでくるでしょう。すでにリモート飲み会是一般化していますが、そのつぎはリモートお見合い、さらにはリモート結婚式やリモートお葬式といったものも現実味を帯びてくるはずですよ。

そういったなかで、当社はこれからもユニタの社名に込められた「ユニークでリタ(利他)」という想いをとに、他にはないサービスを追求していきます。そして、繰り返しになりますが、これからのリモートワーク時代に重要になるのはセキュリティ対策です。サイバー攻撃の94%がエンドポイントで発生することからも、この対策は重要であり、その点、Bromiumは独自の発想で確実なセキュリティ対策が実現できています。当社ではそのあたりを評価し、採用しました。これからはそういった点も導入のポイントになってくると思います。

編集長 今回はリモートインタビューでしたが、コロナショックが終息したら実際にお会いし、あらためてリモートワークの未来について話し合えればと思います。